

特定非営利活動法人 (NPO法人)  
鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会



鶴二支え合いだより

第110号 (10月)

発行：鶴二支え合い広報部

鶴ヶ島市鶴ヶ丘358-1

鶴ヶ島第二小学校南校舎内

電話：049-298-7974

mail s-2012012039561@ah.wakwak.com

https://tagucchi.wixsite.com/tsuru2sasaeai



## 第2回サイエンス・サロン Zoomで講座を楽しもう！

テーマ：寺田寅彦の科学観と「天災と日本人」論

講師 松下貢先生 中央大学名誉教授理学博士

令和3年10月2日(土)10:00~12:00 Zoom配信



鶴二支え合い協議会主催の、第2回サイエンスサロンに参加くださいましてありがとうございます。今回講師を務めてくださいますのは第1回に引き続き「中央大学名誉教授 理学博士 松下先生」です。もうすでにファンになられている方もいるようで、今回も参加させてね、よろしくと頼まれるようになっていきます。

鶴二支え合いでは、今回のようなZoom配信は初めての試みです。新型コロナウイルス感染症も日本でも1年半になりながらも変異株が出るわ、感染者数が爆発的に増加するわで、とても集まって何かをするという状況になく、急遽Zoom配信という形をとることにしました。先生にもお願いすると、すぐ理解してくださり快く承知してくださいました。



○生き物の体表模様いろいろ

○「キリンの斑」論争

○寺田寅彦の科学

○寅彦の科学の特徴と現代的意味

Zoomミーティング 参加者15名  
(eコラボつるがしま 参加者11名)

秀雄

今回は、話の内容がとても多く、時間の関係で、「寺田寅彦の科学観」の話だけとなり、「天災と日本人」は次回に回すこととなった。

寺田寅彦は一般には随筆家として有名で、警句「天災は忘れたころにやってくる」は、寅彦が随筆「天災と国防」など、いくつかの随筆に記していることを要約した標語である。寅彦の本職は東京大学理学部物理学科の教授であり、理化学研究所の所員も兼務していた。物理学者としての寅彦は、誰もが身近に見ているながらも科学的には見過ごしている現象に鋭い分析の目を注いで、数々の科学的な成果を挙げた研究者である。日常的な現象に関わるものだけでも、線香花火、雷やリヒテンベルク図形に見られる放電現象、金平糖の角(つの)のでき方、割れ目や縞模様など。社会科学的なものでは電車やエレベーターの混雑についての考察が興味深い。これに関連して、劇場やデパートでの混雑の危険性についても警告している。

以上のような内容を一つ一つ写真や図を示しながら説明して下さった。これらのことを「なぜ?」「どうして?」と疑問を持つ子どもたちに大人たちが説明出来たら、将来素晴らしい科学者が育つに違いない。  
(理事 柏木美之)

### コラム：五里霧中

“五里霧中、(広さ五里にわたる深い霧の中に居る意)現在の状態が分からず見通しや方針の全く立たない事の例え。心が迷って考えが定まらない事を言うと広辞苑にある。

昨年の1月から現在に至る迄、全国の感染者165万人程。死亡者1万6千人程。東京8月13日5773人、埼玉8月21日1875人、鶴ヶ島市8月20日33人。この様な事態を誰が思った事だろうか。国や県が発表する緊急事態宣言も五回、右往左往するリーダーなき日本。そんな中で民生・児童委員の活動も自粛で自縛を強いられている。委員会も昨年2月に定例会が行なわれて以後一度もなく、各委員さんはポスティング、スーパー・道でお逢いした時、注意をお願いする事で済ませていると思います。先人の言葉を胸に“負けられません。勝つまでは、来年の新年こそ笑顔で迎えられるよう、今が正念場。深い霧も消えてマスクなしで歩いてみたい。こんな普通な事を本気で願う日が今なのです。そんなことがあったね、と笑って話し合う日がすぐそこにあると思います。  
(理事 島田慶嗣)